

結氷河川におけるモロミの滞留について

岩手大学

学生員

○西田 崇広

正員

平山 健一

1 はじめに

モロミ(Frazil)は、結氷河川ではよくみられる氷の小さな粒である。その生成は気温が0℃以下になることが絶対条件であるが、主として turbulentな開水面をもつ流れに限られ、流水の温度が過冷却(-0.4)~-0.03°C)した場合に発生するといわれている。結氷期には過冷却の状態の氷の小さな結晶は流下中にさらに大きさや形をかい、附着しあって Ice Pan とよばれる円盤上の氷盤にまで発達し、河川結氷の進行に大きな役割を果す。河川の結氷は、岸ら⁽¹⁾の研究によれば、北海道では $F_r < 0.4$ の場合に生じる可能性があるとされているが、全面結氷しない区間はモロミの発生域となり、発生したモロミは Ice cover の下を流れて急速の比較的ゆるやかな部分に滞留することになる。Ph.-1は、美幌(網走川)で氷盤下より採取されたモロミで、ほぼ球形をなし、直径2mm程度であった。このような氷盤下におけるモロミの水下滞留は、(1) 河川の流量をせばめ、水位上昇をひき起こす。(2) 貯水池などの有効貯水量をせげる。(3) 取水口における目づまりを生じ、取水能力を著しく低下させる。…などの工学的問題をひき起すことなどが知られている。本報告は、モロミの冬期間における動向の把握と滞留の条件について検討を行うための第一歩として昭和49年より昭和50年の冬期間における北海道開発局の流量観測資料のまとめである。

2 モロミ滞留量の時期的な変動

対象とした北海道の13直轄河川のうちほぼ全ての河川で多少の差はあるが、モロミの滞留がみられた。Fig.-1はモロミの滞留の時期的な変化を主要な河川について次の4つのTYPEに分類して示してある。

TYPE A：モロミの滞留が認められない場合

TYPE B：結氷初期に多量のモロミが滞留するが、その後、漸時滞留量が減少し、1月下旬から2月上旬にかけてほぼ消滅する場合
(Fig.-2 a)

TYPE C：結氷初期に滞留したモロミが、ほぼ一定に解氷期まで滞留する場合 (Fig.-2 b)

TYPE D：モロミの滞留量が、必ずしも時節の進行とは一致しないで増減する場合 (Fig.-2 c)

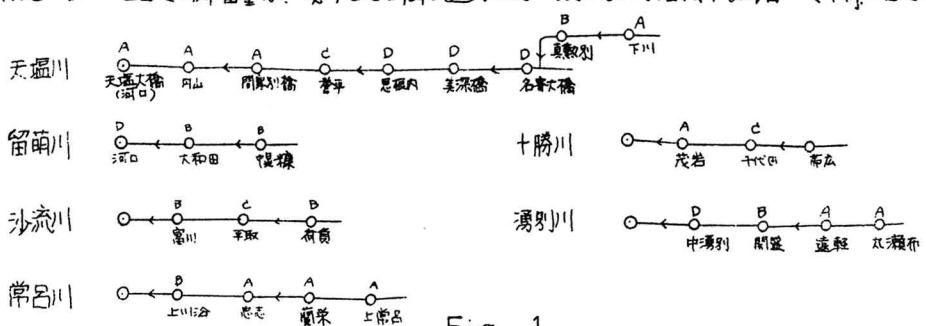


Fig.-1



これらの図より、同一河川でもモロミの滞留が顕著な地点と、ほとんど流下して滞留がみられない地点があり、気象条件による差異よりも、河川形状や水理量による影響が大きいことを示している。従て次節では流量観測資料を用いて各断面における水理量と滞留の関連について調べてみた。

3 モロミの滞留限界について

モロミは、前に述べたように

形状、大きさはもちろん、粒子間の附着についても気象条件のちがいにより種々の場合があると考えられ、これらについて情報を得ることが、モロミの滞留限界を知るうえで重要な点であるが、過去に北海道の河川について調べられたことはない。モロミはそれ自体がもつ浮力とモロミ粒子間の附着により流体力に抵抗している。今、美幌(網走川)で観測されたように、約 2 mm の球形の独立したモロミをえ、水面勾配 $1/1000$ 、水深 1 m 、モロミの比重を 0.9 と仮定すると

$U_e^2 / (\rho/\rho - 1) g d = 5 \approx 0.0$ となり、実際の河川に冬期間生じる水理条件では、ほとんどの場合、モロミは移動している、といふ。北海道開拓局の流量観測資料から与えられる2点法による平均流速と水深を用いてモロミの滞留している場合についてプロットしたものが Fig.- 3 に示される。

流量観測時の資料はモロミの有無が最終的に有無を示すものではなく、観測時における(m/s)

けるモロミの存在の有無を示すものであるが、観測断線の平均流速が約 90 cm/sec を越える場合にもロミが滞留している場合ではないことが明らかになった。

Michel⁽²⁾によれば、北米大陸の河川における調査で、3 ft/sec がモロミ滞留の可能性のある流速とされており、我が国の結氷河川の崩れと一致していることは興味深い。モロミの滞留についての条件をもう少し厳密に調べるためにモロミの性状に関する知識が必要であり、今後の観測にまつたい。又、河川のもと滞留の関連についても、今後調査するにあたっては、

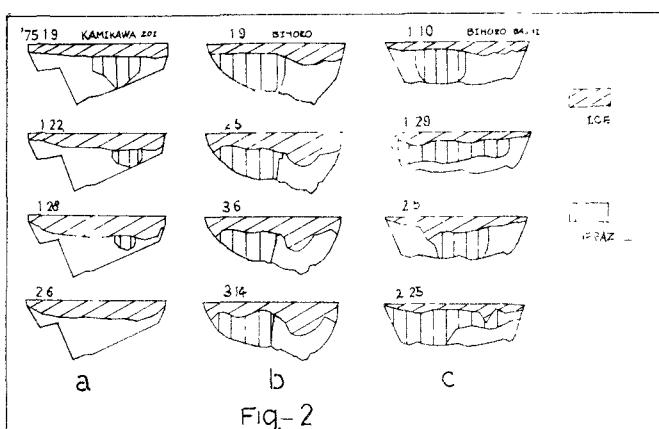


Fig. 2

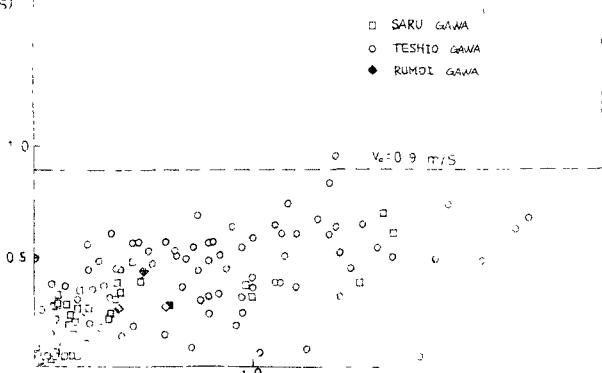


Fig. 3

4 あとがき

本調査は 北海道開拓局河川計画課 開拓局土木試験所の多大な御援助をうけて行われたものであります。

[参考文献]

(1) 嶋方 半尾第4回 第33回 北海道における河川の結氷と冬季渇水量について 土木学会第16回年講

(2) Michel, "Winter Regime of Rivers and Lakes" US CRREL